

▼フレンズコーナー

土木と市民社会をつなぐフォーラムの始動

土木学会/シビルNPO 推進小委員会 委員長  
シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長/土木学会連携部門長  
メトロ設計(株) 取締役

田中 努



土木学会のシビル NPO 推進小委員会は、CNCP と共に、「土木と市民社会をつなぐフォーラム」の立ち上げを目指し、2018年の夏から準備を始めて、試行錯誤を重ね、本年4月からフォーラムとして始動しました。ここでは、その経緯とこれからの取り組みをご紹介します。

■土木と市民

土木工学は市民工学です。人が集団生活を始めたときから、「土木」が始まりました。小川に橋を架け、道を作り、船着き場を作り、田畑を作り、水路を作り・・・人々の社会生活の基盤を作ってきました。そして治山治水。敵から国民を守るのは自衛隊ですが、自然災害から国民を守るのは「土木」です。

「土木」が大型化や高度化するにつれ、名主・豪族・大名・政府・・・と、土木の実施者が市民から離れて行きました。今日、多くの土木屋は、国や自治体の限られた予算で、できるだけ快適で便利で環境に配慮したまちづくりに、そして安全で安心なまちづくりに、3K と言われる過酷な環境でも、日夜取り組んでいます。

土木学会は、「土木」を実施する側の産学官との連携・協働は固いものの、市民とのつながりが弱く少ないことに苦慮し、その改善に取り組んでいます。

私は、高度成長・バブルの時代が終わり、価値観の多様化が進んで、あらゆるビジネスで、顧客満足という、作り手の価値観ではなく消費者・ユーザーの価値観でものをつくる社会現象を思い出します。市民にとって価値のある「土木」とは？ 「土木」の専門家として、市民と共に考える必要があるでは？ 私は、耐震屋・防災屋なので、特に感じますが、レベル2の地震や津波や洪水を考えるとということは、市民が被害を受けることを前提にしているということです。市民は、自分が、どの程度の被害を受ける覚悟をするのか、それを避けるためにどの程度までの費用を負担するのかなど、話し合う必要があるのでは？ と思います。

■土木と市民社会をつなぐフォーラムの目的

土木学会のシビル NPO 推進小委員会では、全国の自治体にアンケートを行って市民団体との協働活動の実態を調べ、WEB で市民団体の土木に関わる活動を調べました。

その結果、全国の国・自治体・大学・企業・NPO・個人などが、「土木と市民社会をつなぐ」活動をしていることが分かりました。CNCP 通信の11月号から表紙とフレンズコーナーで紹介されている活動は、そのような仲間の活動です。

でも、図1のように、多数の組織・団体がそれぞれの市民とつながっているものの、仲間との連携・協働が弱く、市民の様々な興味や関心に、必ずしも応えられていないと思われました。

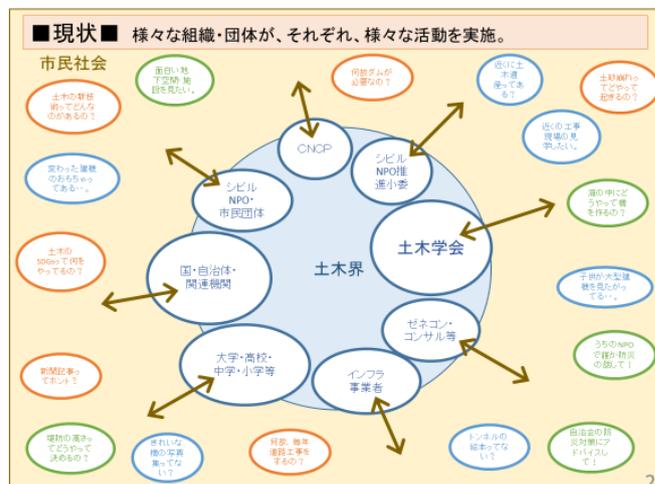
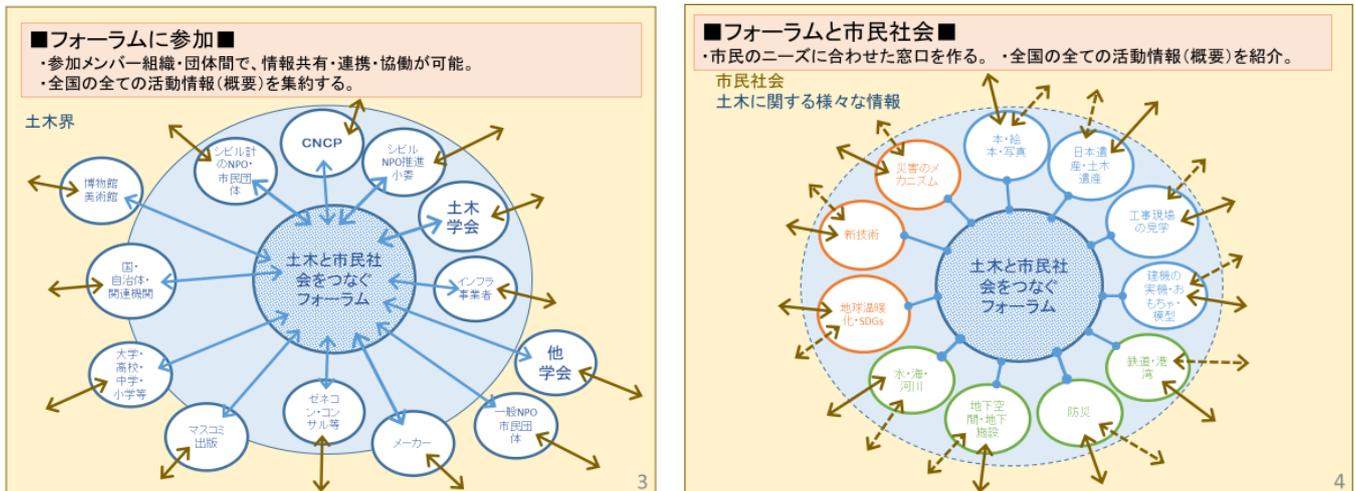


図1 組織毎の市民とのつながり

そこで、「土木と市民社会をつなぐフォーラム」を設立し、図2のように、「つなぐ情報」を集約し、仲間と共有し、意見交換・情報交換、連携・協働・支援することにより、「つなぐ活動」が強化され、全国の市民に、全国の様々な「つなぐ情報」を提供できると考えました。



(1) 情報共有と連携・協働

(2) 市民の興味毎の情報提供と連携

図2 フォーラムを介したつながりの変化

シビル NPO 推進小委員会では、CNCP と土木学会の「つなぐ活動」をしている土木広報センターや委員会と「フォーラム準備会」を設立し、フォーラムの目的や求められる機能について議論を重ね、その結果、フォーラムのめざす姿を次のようにまとめました。

私たちが「めざす姿」は、次の状態になって、続くこと。

- 市民が土木の全体を（事業も人も、良いところも悪いところも）概ね正しく理解し、様々なことに、市民が自分の意見を言えて、それらがある程度、インフラ整備（維持・更新）や防災・環境整備等の事業に反映されていく状態。
- さらに、土木のファンがいて、楽しんだり、自ら土木に関係する仕事に就く人が居る状態。

## ■「土木と市民社会をつなぐフォーラム」のこれからの取り組み

既に「つなぐ活動」をしている人たちは、フォーラムの設立趣旨に賛同してくれました。しかし、フォーラムを介した情報の共有は有益ですが、フォーラムの運営に参画する余裕は無いようでした。

当初、土木学会が中心になってフォーラムを立ち上げ、CNCP がサポートしていくことを考えていましたが、土木学会には土木広報センターがあり、既に「つなぐ活動」を精力的に推進していることもあって、新たに多くの組織・団体を横断的につなぐフォーラムを作ることは、現時点で得策ではなかったようです。

そこで、フォーラムの集まりをゼロから作るのではなく、既に「つなぐ活動」をしている組織・団体の活動を活かすことにしました。まず、フォーラム準備会で共に議論してきた土木広報センターと他の委員会等、および CNCP の持つ仲間・ネットワークとツールを活かし、コンテンツの提供と改善や新たな活動の提案をする活動を始め、共に活動する組織を、徐々に増やしていくことにしました。

土木学会の新年度（4月）から、「土木と市民社会をつなぐフォーラム」として始動します。フォーラムは、図3のように、シビル NPO 推進小委員会の拡大会議として土木学会の組織であり、かつ、CNCP のプラットフォーム上のプロジェクトでもあります。シビル NPO 推進小委員会と CNCP の計 17 名（全員、土木学会の小委員会委員であり、かつ CNCP の理事・会員・サポーターである）で、フォーラムの運営会議を構成し、これまで共に議論してきた他の仲間をフォーラムメンバーとしました。主に土

木学会を対象に活動する「土木学会WG」と、主にCNCPを対象に活動する「CNCP-WG」とを設置しました。

「土木学会WG」は、図3のように、土木学会の委員会として、学会内の土木広報センターおよびフォーラムメンバーの委員会他の「つなぐ活動」を調査し、委員会とつながっている市民や仲間、委員会が持つネットワークとツールを活かし、コンテンツの提供と改善や新たな活動の提案をする活動を行います。

土木広報センターは、表1のように、様々な「つなぐ活動」を行っています。これらの「つなぐ活動」にCNCPの仲間の活動を紹介したり、CNCPにつながっていない土木広報センターの活動をつなげたり、「つなぐ情報」を加えたりしていきます。

「CNCP-WG」は、図3と表1のように、CNCPのプラットフォーム上のプロジェクトの1つとして自律的な活動を行い、CNCPのHP・FBやCNCP通信等のコミュニケーションツール、およびCNCPの会員とサポーターの人的ネットワークを活用できます。さらに、「CNCP-WG」自体が「サポート会議（旧連絡調整会議）」となり、CNCPの「つなぐ活動」を通じて、フォーラムの目的達成に向けて活動していきます。

■CNCPの皆さんへのお願い

CNCPの会員とサポーターの皆さん。皆さんの活動を、是非、フォーラムにお寄せください。CNCPと土木学会のネットワークを通じて、多くの仲間と市民に紹介していきます。

※土木学会/シビルNPO推進委員会 FB：<https://www.facebook.com/jsce.civil.npo/>

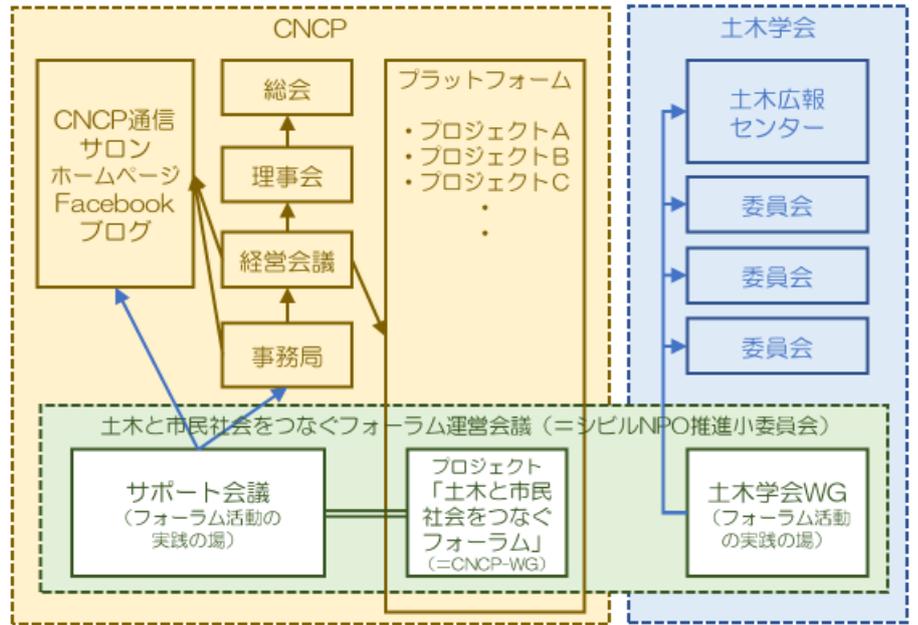


図3 フォーラムとCNCPと土木学会のつながり

表1 CNCPと土木学会のつなぐ活動

WG		活動内容
土木学会WG 土木学会とコラボ (連携・協働) フォーラム (=小委の拡大会議) として、 個別に打合せして活動	土木広報センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木広報大賞</li> <li>インフラ解説動画</li> <li>市民普請</li> <li>テレビ等番組案内</li> <li>土木 i</li> <li>土木の日シンポジウム</li> <li>土木コレクション HANDS + EYES</li> <li>未来の土木コンテスト</li> <li>ドボクのラジオ</li> <li>オンライン土木博物館「ドボ博」</li> <li>土木学会Facebook</li> <li>土木学会twitter</li> </ul>
	市民とつなぐ活動をしている委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育企画・人材育成委員会/</li> <li>コンサル委員会/市民交流研究小委員会</li> <li>地盤工学委員会/斜面工学研究小委員会</li> <li>.</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>随時、土木学会とCNCPの活動情報を、相互に、仕組み・ツールを通じて広報</li> </ul>
	サポート会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>CNCPの活動の企画</li> <li>CNCPの問題検討</li> </ul>
	HP・FB等	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成・発信情報・情報拡散の企画・検討・試行・支援</li> </ul>
CNCP-WG CNCPとコラボ (連携・協働) フォーラム(=CNCPのプロジェクト)として、 サポート会議 に出席して活動	CNCP通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツの企画・執筆者への依頼</li> <li>「フォーラムコーナー」を毎月、2～3ページ執筆</li> </ul>
	サロン	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエビナーの開催方法の調査・検討・試行・支援</li> <li>開催テーマの企画・登壇者の選定</li> </ul>